

令和3年度（2021年度） いわみ西保育所拠点事業報告

《いわみ西保育所》

I. 事業総括

《保育方針》

- ◎一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き、望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- ◎保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、援助することを目指しました)
- ◎子どもと子育てに優しい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づいて、養護と教育を一体的に展開しながら保育を進めてまいりました。子どもたちが安心して過ごせる環境の中で愛着形成を育み、自己肯定感を高められるように、常に肯定的な言葉がけと寄り添う気持ちで関わりを深めてきました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終的な目標ととらえて、それぞれの年齢で押さえておくべきポイントを計画として掲げ、年間計画に沿って取り組みを進めました。ただ、子どもたちの成長を数値としてあげることは難しく、一年間だけで数値を出すべきものではなく、長い年月の先に実績として上がることを期待し、ここでは数値は示しません。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方との交流を深めることを目標としていましたが、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、交流事業は幾つか控えることになり、目標を達成することは難しくなりました。交流が行えた時には地域の温かさを感じ、喜びの声をいただき、地域交流の必要性を改めて強く感じました。数値は掲げておりませんが、現状が変われば地域との関係性の強化は引き続き取り組んでいきたいと思っております。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標 指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.31 千円	2.28 千円
	労働生産性	4,400 千円	4,404 千円

人時生産性は指標値に及びませんでした。労働生産性はほぼ指標値通りに達成できています。これは、0歳児が途中入所であることで委託費が予定より少なくなっていますが、職員数のところで、計画より1名少ない人数で保育を行いましたので、労働生産性では、指標値通りの実績に繋がりました。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

クラス担任制ではありますが、保育所全体で子どもや保護者を支えていこうと、常に情報共有しながら関わりを持ってきました。乳児期では、子どもたちが安心して過ごせる環境の提供、保護者には初めての集団生活に対する不安を感じさせることなく、安心して預けることが出来る環境の提供を行ってまいりました。保育計画では、乳児期に培った信頼関係をもとに、さまざまな活動や働きかけを行い、子どもたちの成長を支えるように努めました。子どもに対しては、常に愛情を持って接し、気持ちに寄り添うことを大切に、一人ひとりの違いを認めながら保育を行いました。肯定的な言葉がけの中から子どもたちが自分を大切に感じ、自己肯定感を高めながら過ごせることを目指しました。

新型コロナウイルスの関係で、行事などは縮小や中止もありましたが、子どもの育ちを保護者へ伝え、共有できるように職員で対策を取りながら進めてまいりました。12月からはICT化も始まり、システムを利用しての保護者への発信も行いました。写真などの映像での発信もできるようになり、保育の可視化もできたのではないかと思います。

2. 人財育成への取り組み

今年度も新型コロナウイルスの影響で、外部へ出かけての研修は難しかったですが、オンラインでの研修が増え、研修によっては多くの人数で受けることもできるようになり、オンラインの良さも活用できたのではないかと思います。

法人内研修のマネジメント研修では、部下とのフィードバックミーティングの重要性を学んだことで、目標の伝え方やそこへ向かうまでの方法や取り組みなど、日々の業務に対する姿勢などの考え方が変わったことで、職場の雰囲気や職員の意識も変わり始めていることを感じます。これまで行ってきたことを継続的に行うのではなく、自分たちが気持ちよく働けるように、そしてより良い保育を提供するために、どうしていきべきかを自分たちで考えることが出来るようになって

てきているのではないかと感じています。

3. 地域との関係強化への取り組み

今年度も新型コロナウイルスの感染状況により、ボランティアの受け入れなどは、中止となったりすることはありましたが、小康状態の時には感染対策を取り入れながら、ボランティアの受け入れや交流行事を実施しました。高齢者交流では「元気をもらえた!」「久しぶりに楽しく過ごせた」と喜びの声をいただき、コロナ禍であるがこそ、交流の重要性を改めて感じました。交流などが減少したところは、SNSを利用してのInstagram発信などを行い、地域への発信・情報提供へとつなげました。

4. 生産性向上への取り組み

計画として掲げたICT化については、補助金の関係で導入時期が12月に入ってからとなりました。当初は保護者も職員も不慣れなところがあり、登園降園のQRコード認証からスタートさせ、年明けには連絡帳機能を活用して、タブレットから保護者のスマートフォンへの情報発信を始めました。これまで午睡時間を利用しての連絡帳の記帳に多くの時間がとられていましたが、システムを利用することで、全体的なことは一斉配信で保育の様子を保護者に伝え、個人的なことは個別に伝えるようにし、少しずつ時間の有効活用が出来てきています。今後いろいろな機能を上手く使いこなすことができれば、時間の有効活用が増えてくるのではないかと考えています。午睡時間や夕方の時間を有効活用することで、保育準備や職員間の情報共有、子どもたちのケース会議等の時間をしっかりと取り、より良い保育を目指しながら生産性の向上に努めました。

5. 施設整備への取り組み

事業計画に掲げたものは予定通り行うことが出来ましたが、保育所が建てられて17年経過していることもあり、計画以外のところでの修理がいくつかありました。中には、保育を行うにあたって不便となるものもあり、急な修理となることもありました。修理が出来るものは良かったのですが、年数が経っていて部品が無いものや製造が中止になっているものもあり、今後は点検などを考えながら設備環境を見直していきたいと思います。

令和3年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率 (KPI)
120名	106名	110名	91.7%

(2) 利用者構成状況

クラス別	計画数	実績数	差異
0歳児	9名	10名	+1名
1歳児	12名	13名	+1名
2歳児	18名	19名	+1名
3歳児	30名	31名	+1名
4歳児	10名	10名	—
5歳児	27名	27名	—
計	106名	110名	+4名

2. 実施サービス

計画上の事業	実施した内容・成果等
<p>《養護》</p> <p>生命の保持</p> <p>情緒の安定</p>	<p>・清潔で安全な環境を提供しました。今年度は新型コロナウイルスのこともあり、安全性だけではなく、感染予防対策にも力を入れ、コロナ禍での保育所運営継続を目指しました。おかげで、保育所を休所することなく一年を乗り切りました。</p> <p>・一人ひとりの生活リズムを大切にしました。また、身の回りの事が自分でできるように、それぞれの年齢に合った支援を行い基本的な生活習慣の確立も行えました。</p> <p>・乳児期の愛着形成が育まれるように関わってきました。自分は愛されていると感じることが出来るよう、一人ひとりとの関りを大切にしてきました。親と早くから離れて過ごす子どもたちにとって安心できる場であり、保護者も安心して預けることができるような保育所を目指し、落ち着</p>

	<p>いて過ごせる環境を提供できたと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児には常に肯定的な言葉がけを心掛け、自己肯定感が育まれるような関りを持つようにしました。子どもたちとの信頼関係を築き、心身の調和や安定感を図った上でいろいろな経験を積ませ、自発性や探求心、挑戦する気持ちを育てるような支援を行いました。子どもたちの成長は一人ひとり違いますが、それぞれの成長の姿は見ることができました。
<p>《教育》 健康</p> <p>食育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気な体作り計画表」に基づき、クラス別に目標をもって、年間を通して様々な運動やあそびを取り入れてまいりました。乳児期は、安全な環境の下で成長に必要な動きや活動を意図的に行い、運動機能を高める支援を行いました。個人差はありますが、活動範囲を広げながら取り組むことができていると思います。 ・幼児期では、「しゃきっと座ろう体操」「ラジオ体操」などを継続して行うことで、体幹を鍛えるなど日々の積み重ねを大切にしてきました。また、様々な運動遊びを取り入れることで、身体だけでなく、頑張ろうとする気持ちや挑戦する気持ちを育てるようにしました。 ・自然豊かなこの地での自然の中での遊びも取り入れてまいりました。野草茶づくりに必要な野草集めに散歩に出かけ、深篠川・日貫川での川遊びや、金毘羅さんの山登りなど、身近な場所での自然遊びを経験しました。また、地域内を歩くことで、地域の方に元気な子どもたちの姿を見ていただくことも出来ました。 ・毎日の給食を通して、食べることの楽しさや、いろいろな食材を食べられることができる感謝の気持ちを育てること、食に対する興味を高めるなど様々な食育活動を行ってまいりました。0歳児では安心した雰囲気の中で、食べる事ができ、また自分で食べようとする意欲なども育てるように関わってきました。そこを基本として、好き嫌いなく何でも食べるようになること、食具を使って食べる事が出来るようになること、また就学前には、時間内で食べることや姿勢よく食べられること等、ルールやマナーについて

	<p>でも知らせていきました。忙しい保護者にとって、子どもたちがしっかりと食べ元気に過ごせることは何よりうれしいことではないかと考え、子どもたちの姿を伝えることも大切に行いました。</p> <p>5～6年間で保育所で過ごす中で、卒園児にはほとんどの子どもが、なんでも食べることができるようになっていることを嬉しく思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑やプランターを利用して野菜を育て、自分たちで食材を切り、料理することを経験しています。収穫の喜びや自分たちで作ったものを食べる喜びから、食に対する興味関心を高め、食べることへの意欲にもつなげています。 ・保育所での取り組みを保護者に伝えることで、保護者の食に対する意識も変わってきています。食の大切さを伝えることで、子どもの成長を共に支えていくことができると願っています。 <p>・人と人とのつながりを大切に考え、乳児期にはしっかりと愛着の形成を目指し、幼児期は自己肯定感が育まれるような関わりを持つように心掛けました。担任との信頼関係が構築できたうえで、子どもたちが安心して様々な活動に取り組めるようにしました。</p> <p>・幼児期には友だちとの関係のなかで、協調性や思いやりが育つように、一人ひとりの違いを認め、自分らしくいられることを大切にしました。一人ひとりが違うことを理解することで、他人と比べなくてもよいことや、違いがあることを非難することがなくなり、いじめへ繋がることもなくなると考えています。</p> <p>・異年齢児の交流を通して、家庭では出来ない人との関りを経験するようにしました。小さい子どもとの触れ合いの中から、優しくすることを学び、お世話をすることによって自分が人の役に立つことを感じるができます。そのような関りの中から社会性も身に着けていくことができたのではないかと思います。</p>
人間関係	
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に過ごせる環境の提供を行いました。守られているという安心感の中で、探索活動を広げ、周りの物事に

	<p>興味関心が持てるようにしました。また、それぞれの年齢に応じた保育の環境(生活の流れがスムーズに行える環境、年齢に合ったあそびの環境など)を計画的に考え、実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象や自然事象への興味、関心が高まるような言葉がけを行い、活動を取り入れるようにしました。今年度は新型コロナウイルスの事もあり、活動範囲は限られましたが、保育所内でできることを考え保育の中に取り入れるようにしました。子どもたちの成長を支える環境については、職員間でも話し合いの場を持ち(環境会議の実施)、改善などを定期的に行うように努めました。 ・異文化に触れる経験として「えいごであそぼう」を取り入れました。言葉の違いなどを通して異文化に触れるようにしましたが、活動内容についての意思疎通が講師とうまく取ることができず、今後の取り組み方に課題が残りました。 <p>言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期には言語の獲得をめざし、場面に応じたさまざまな言葉がけを行ってまいりました。また言葉のやりとりから、人との関わりを深めることにもつなげていきました。子どもたちの語りかけはしっかりと受け止め、やり取りの楽しさ、言葉で伝えることの喜びが感じられるようにしました。 ・絵本などを通して、言葉の広がりややりとりの楽しさを知るようにし、そこから想像力を広げ、他人の気持ちを考えることへも繋げていくことを大切にしました。 ・幼児期には聞くことの大切さも知らせ、就学に向けて人の話を聞くことが出来る、自分の思いを伝えることが出来るようにしました。 ・言葉のやりとりから、言葉や文字に興味を持つようにし、文字や数字の理解へも繋げていきました。また保護者にも読み聞かせや、子どもとの会話を広げることを協力してもらおうように言葉のやりとりの重要性を伝えるようにしました。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な表現と豊かな感性を育てるために、乳児期から保
--	--

	<p>育者は表情豊かに関わることを心がけました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能を使つての表現遊びが出来るように環境を整え、リズム遊びなどを取り入れてまいりました。子どもたちが表現することを常に肯定的にとらえ、自分らしい表現が出来ることを大切にしました。 ・講師によるアートデーでは、絵画・制作活動を通して自分らしく表現する経験をするようにしました。のびのびと表現できるように、いろいろな素材を準備し、様々な活動を取り入れて頂きました。自分なりの表現を認めてもらい、子どもたちも嬉しそうでした。 ・おたのしみ会での発表は、それぞれの年齢の目指すところの目標に向かい、自分なりに頑張り、友だちと一緒にやり遂げた達成感を感じる事が出来、大きな自信へとつながっていたと思います。
<p>《災害時の備え》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って毎月一回の避難訓練を実施しました。訓練後に内容を検討し、改善点を話し合うことで、より現実的に取り組むことが出来ていたと思います。 ・BCPについても再確認し、役割の確認などを行いました。 ・備蓄管理も問題なく行えています。
<p>《特別保育事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり事業 ・体調不良児保育 ・障がい児保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策として、町内の方の受け入れについては変わりなく行いましたが、他県からの受け入れについては、自宅で一週間程度待機してもらってから受け入れました。 ・新型コロナウイルスの感染予防対策が徹底されていた事と邑南町役場からの依頼(体調不良が見られる時には、なるべく自宅で過ごしてほしい)もあり、利用数は昨年程度でした。 ・担当看護師が感染予防対策に気を配り、玩具消毒、換気など衛生面が十分配慮され、安心して任せることが出来ました。 ・今年度は、邑南町役場からの補助金対象者の園児はおりませんでしたが、配慮を必要とする園児については、関係機関と連絡を取り合い、寄り添いながら保育を進めてまいりました。また保護者の不安な気持ちにも寄り添い、情報

・保護者の子育て支援を行う	<p>を共有しながら支援を行いました。</p> <p>・保護者の子育て支援として、気になる事がある時や保護者が不安に感じている事、問題がある時には随時面談を行いました。また、保育所だけで解決できないような時には関連機関を紹介し、相談会を実施しました。</p> <p>・保護者全員との個人懇談を実施しました。</p>
《その他の行事》	<p>・コロナ禍ではありましたが、子どもたちの成長の姿を見てもらう場として、運動会・おたのしみ会・参観日・夕涼み会など保護者参加の行事を行いました。時間短縮や規模の縮小はありましたが、子どもの成長を見て頂き、成長の喜びを共有することが出来ました。また子どもたちにとっては、成長した姿を保護者から褒めてもらうことで、自信を持ち、次へのやる気へとつながる良い経験となったと思います。</p>

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職
所長	1		1			
主任保育士	1		1			
保育士	1 2	3	1 1	3	-1	
子育て支援員		2		2		
管理栄養士	1		1			
調理員		3 (2.4)		3 (2.4)		
看護師		2 (1.2)		2 (1.2)		
清掃員		2 (0.4)		2 (0.4)		
計	1 5	1 2 (9.0)	1 4	1 2 (9.0)	-1	0

計画より正職員が1名減となっておりますが、職員の配置人数は満たしており、保育を行うことに問題はありませんでした。

【人財育成事業】

① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	栄養士 調理師	3名	・新しいメニューや調理方法など 3保育所で共有しました。

救急法講習会	全職員	20名	・2回に分けて行いました。
防犯訓練	全職員		・コロナの為中止
感覚統合についての研修	全職員	12名	・令和4年度5月に学ぶ、グレーゾーンの子どものための対応の研修の前に学んでいた方が良いとされていた「感覚統合」について、代表研修を受けた山根係長より学ぶ。研修と同時に感覚統合についての本も職員間で回して学び、より具体的に内容を理解することができました。
保育所児童保育要録研修	保育士	12名	・幼児教育センターの講師から保育所児童保育要録の意義、記入のポイントについて学びました。
年齢別、主任、調理師の話し合い（隔月）	担当者	8名	・情報を交換し、日々の保育の向上を図ると共に、年間計画表の見直しを行いました。

② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
・邑智郡保育研究会総会 「人間関係の発達と保育実践について」 (リモート研修)	全職員	17名	・発達段階に応じた子どもとの関わり方を学ぶ。具体的内容だったので、すぐに実践に活かすことができました。
・研究大会 「子どもの発達とメディア環境」(リモート研修)	全職員	18名	・子どもの発達に及ぼすメディア(テレビ、タブレット、スマートフォンなど)の影響を学び、保護者へ発信できるように必要な知識を職員間で共有しました。
島根県保育協議会・島根県社会福祉協議会(人材センター)			
・キャリアパス対応生涯研修「チームリーダーコース」	係長	1名	・チームリーダーとしての役割を学び、意識改革を行いました。
・中国地区保育研究大会	全職員	8名	・オンライン研修として分科会の中から興味のあるものを受講しま

「育てること」をめぐる思想 「配慮を必要とする子どもへの支援」 「外国にルーツを持つ子どもの受け入れ」			した。 ・令和5年に全国大会での調理部門での発表があるため、参考として視聴しました。
・指導的職員研修 I	係長	1名	・チームが取り組むべき課題を明示し、実践していく力、変化にも対応できる即興を身に着ける必要性を学びました。
・主任保育士研修 「学びを支える保育環境」 (オンライン研修)	主任保育士・保育士	5名	・保育環境についての研修で、わかりやすい内容だったため、主任以外の保育士も視聴し保育環境の重要性を改めて考えさせられました。すぐに実践していきたいと思っています。
・スキルアップ研修 「保育者が知っておきたいアレルギー対応」(オンライン研修)	保育士	5名	・島根大医学部小児科の竹谷先生から、アレルギーの基礎的なことや日頃の保育の中で気をつけること、保護者への情報提供について学びました。
・県主任・調理師研修会	保育主任 調理師	16名	・上越教育大学大学院 野口孝則氏による「食と保育のつながり」について学び日々に生かすことができました。(動画配信にて、多くの職員が研修を受けることが出来ました。)
・県施設長研修「コロナ禍の中、保育者の心の健康を保つ」～今、施設長としてできること～(オンライン研修)	所長	1名	・コロナ禍の状況の中での現場状況を確認し、所長として今行うべきことや、今後の対応などを学びました。まだ続くコロナの状況に対応できるようにしていきたいと思っています。
・OJT推進研修	所長・主任 保育士	2名	・OJTの対象者を新人だけではなく、新たにその業務につく人に対しても行い、職場全体のレベル

			アップを図ることの必要性を学びました。所長・主任の二人で参加したことで、現状の把握や今後の方針も考えることができ有意義な研修でした。
・アレルギー研修	全職員	6名	・アレルギーの為に食事制限のある子どもの対応について学びました。栄養士・調理員・看護師・保育士のいろいろな立場から、知識を深め、実践に役立てることが出来ました。
町内研修			
石見養護学校保育士研修会	保育士	5名	・実際に描いた子どもの絵から子どもの心理や状況について学びました。絵を描いていく上でのポイントも学んだので、実践していきたいと思います。
邑南町特別支援連携協議会研修会「発達障がいにも正しい理解と支援の考え方」	保育士	9名	・西部島根医療福祉センター 大野貴子医師より、発達障害の子どもたちにみられる姿や、その支援の仕方や対応などを具体的に教えていただきました。保護者支援についても話を聞くことができ、実践に生かしたいと思います。
邑智病院 コロナ対策研修	所長	1名	・島根大学教授による、コロナの感染経路や対応策について学びました。子どもの感染経路は大人からということで、職員・保護者のすべきことを聞き、予防対策の必要性を改めて強く感じました。
邑南町同和人権研修	所長	1名	・同和問題だけでなく、“違い”からくる差別についても広く学ばせていただきました。日頃の何気ない言葉や態度、やり取りの中にある差別についても気づかされ良い学びの場となりました。

③ 事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長 主任	1名 3名 2名	・業務に対する姿勢や目的意識など、人材育成のフィードバックの重要性などマネジメントについて科学的に学ばせていただきました。日々の実践も行いながら、学びを実行へと移すことの重要性を感じ、研修後の振り返りに、新たな決意と反省を感じています。
人権・権利擁護研修	全職員	4名	・高齢者福祉の観点からではありますが、人権や権利擁護について学ばせていただきました。
ハラスメント研修	全職員	5名	・ハラスメントについて学びながら、自分自身を見つめなおす機会でもありました。
災害支援セミナー	所長	1名	・実際の災害時の対策事例などを見せていただきながら学びました。研修を受けながら、保育所のことを頭に浮かべ、災害時のシミュレーションを考えることができました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの受け入れ	・お茶会の講師、おはなし会、わらべうたのボランティア受け入れ。 ・コロナの小康状態の時のみの受け入れとなりました。		・貴重な体験が出来ています。

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT化(「はいチーズ」システム)導入	・ICT化の導入によって、間接業務の時間の短縮(登降園の時間確認、保護者への連絡業務、連絡事項の一斉配信、保育の様子配信の可視化、保護者からの欠席連絡)が出来るようになりました。これまで連絡帳記入にかかっていた時間を他の業務に有効活用しています。保育の様子を写真などで配信できるようになり、保護者の方からも喜ばれています。	・職員数の削減 ・休憩時間の確保 ・直接保育業務の時間の増加 ・残業の減少	・職員は最低限の人数で業務にあっているため、削減は行っていません。 ・時間の有効活用は出来ています。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
パソコンの入れ替え	・サポートサービスが終了していた Windows7 のパソコン(デスクトップ4台ノートパソコン4台) Windows10 のパソコンを購入し入れ替えました
「はいチーズ」の導入 業務効率化システム	・システム導入とそれに必要なタブレット8台、QRコードリーダー1台を購入しました。
遊具の購入	・子どもの発達に必要な遊具(ブロック、ままごと道具、人形等)を購入しました。
絵本の購入	・子どもの成長を支える絵本の購入、古くなった絵本の差し替え購入を行いました。
椅子・カーテン・食器・ カメラなどの購入	・乳児室の劣化したカーテンを取り換え購入をしました。 ・破損などで足りなくなった食器の購入をしています。 ・保護者発信用のカメラの画像が悪くなったので、新しいものを購入しました。
計画外の施設整備等	実施した内容等
故障による24時間換気扇の交換	・24時間常に使用している乳児トイレの換気扇が故障した為、新しいものに取り換えました。
詰まりによる汚水槽の交換	・幼児クラスの汚水槽が詰まり、修理が必要となりましたが、交換部品が製造中止となっていた為、新しいものに取り換えました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	9,000	5,925
大規模修繕	1,400	900
その他	1,000	675
計	11,400	7,500

入所予定の0歳児が、途中入所だったことで委託収入が計画より少なくなったことと、給与改定による人件費の増加の為、上記のような実績となりました。

【感染症・災害への対応への取り組み】

・災害対応については「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に沿って、月一回の避難訓練と振り返りを行いました。実際の訓練を通して見直しを行い、職員間で動きの確認を行いました。感染症に関しては、BCPの見直しと共に、職員の役割や体制について話し合いを行いました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和3年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情1】

- ・発生日：令和3年4月9日
- ・申立者：保護者の方（父親）
- ・苦情内容：

7か月で急遽入所が決まった男児が母乳しか飲まず、哺乳瓶でのミルクを飲むことを入所までに練習しておいてほしいと伝えていたが、上手くいかず、そのことで職員から言われたことで母親が悩んでいたことを知った父親が、母親には内緒で訪問し、「対応した職員はだれか」と苦情を受付けました。

- ・処理結果：

職員から威圧的に言われたと思っていた父親でしたが、職員が丁寧に対応し、訪問時にミルクを飲まないことについての対処法などをいくつか提案したところ、帰る時には「いろいろ考えて頂いてすみません…」と訪問時の険しい態度から緩やかな表情へと変わっていました。ただ、職員が母親一人に対し、数人で対応したことが、威圧的に感じさせてしまったようなので、そのことは反省し、対応の仕方について再度職員間で確認しました。

- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

【苦情2】

- 発生日：令和4年2月18日
- 申立者：保護者の方
- 苦情内容：

子どもの担任に用事があったって電話をしたのに、担任がいることを訪ねた時に間があったことや用事があったって電話をしているのに「おつなぎしますか？」と当たり前のことを言われたので、電話の対応がなっていないのではないかと苦情の電話を受け付けました。
- 処理結果：

保護者の方には、その場ですぐに謝りの言葉を伝えました。対応した職員は日頃から保護者対応は丁寧なので、話を聞くと対応としては間違っていないのですが、相手との間に誤解が生じていたようなので、誤解の原因と電話があったことは職員には伝えました。
- 第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以上